

てるびっと

No. 13

2007.3

京都府海外研修KYOのあけぼの会



海外研修KYOのあけぼの会
会長 田中 田鶴子

ごあいさつ

会員の皆様におかれましては、お変わりなくお元気でご活躍のことと存じます。

日頃は、当会の活動にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、今年度は大きな事業の一つとして、京都商工会議所女性会との共催で「スイス・チューリッヒ、ジュネーブ」への研修旅行を企画いたしました。7年前の研修会でご講演いただいたチューリッヒ在住のピアニストで才媛の親日家の「ラング・イボンヌさん」のご厚意により、チューリッヒの各方面で活躍されている女性の方々と交流会を計画することが出来ました。また、ジュネーブでは国連機関の見学も予定しております。

ご承知のとおり当会は、京都府が実施した女

性海外研修事業の修了生が女性関係団体相互のネットワーク作りや国際交流の促進を目的に活動を展開しております。今回もこの主旨に沿って充実した研修が実施できるのではないかと、期待しているところです。是非、多くのご参加をよろしくお願いいたします。

近年我が国では、男女共同参画社会が進み女性の社会進出が増える一方で、少子化、高齢化も大きな社会の問題となっております。まだまだ仕事と子育てが両立できる環境ではないというのが現状です。このような厳しい現実を見て、子どもを産むことをあきらめた女性も少なくないと聞きます。男女共同参画と少子化対策は「車の両輪」であると言われております。男女ともに働き方の見直しが今後問われてまいります。また、いじめや不登校といった様々な教育問題も大きな課題を抱えています。私たちが国際交流を行う上で、そういった点を認識しながら諸外国の状況を学び社会へ貢献していきたいと存じます。

春の総会及び研修会

日時：平成18年4月26日(水)10:30～16:00
場所：嵐山らんざん

講演テーマ 「石油ショック」 — 21世紀は資源争奪の時代 —

講師：京都大学大学院研究科 社会基盤工学専攻教授 芦田 譲 先生



最近の油価の高騰を受けて、オイルピークに関する議論が盛んに行われている。オイルピークとは世界の石油生産がピークを迎えたというものである。

1930年～2004年までの石油の発見量と生産量をみると、発見量のピークは1967年であり、1982年には発見量と生産量が同量になり、その後は生産量の方が発見量を上まっています。



石油の究極埋蔵量の予測に対しては、一番悲観的なキャンベルは1.8兆バレルだとし、一方、楽観論はアメリカの地質調査所である。彼らは数学的なモデルではなくて、探鉱、堆積盆地のデータを用いて推定し、究極埋蔵量は3兆バレルであるとしている。

1.8兆バレルで可採年数が41年だとすると、3兆バレルを単純に比例計算すると68年になる。41年が68年になるだけで時間稼ぎはできるが根本的には変りはない。

石油がなくなっても天然ガスがあるという話がある。天然ガスは石油とともとで産出される。しかし、可採年数とは確認埋蔵量をその年の生産量で割った値であるから、石油が少なくなって天然ガスをどんどん使い、例えば、生産量が年間5%にずつ増えていくと、180年といっても40年になる。

1997年12月、気候変動に関する国際連合枠組条約の京都議定書において、我国は2008～2012年の平均で炭酸ガスの排出量を1990年のレベルに対し、6%削減すると約束した。この条約は2005年2月にロシアが批准したことにより発効した。その削減目標の達成に向けて、我国でも各種の取組がなされている。しかし、2006年末において、炭酸ガスの排出量は1990年に比べて、約8%増加しており、京都議定書の公約を守るには14%削減しなければならないというのが現状である。

従来のエネルギーは高いエネルギー密度で存在し、市場が形成され高収益である。一方、自然エネルギーは低エネルギー密度ではあるが、広く分布し再生可能である。しかし、低収益であり、市場競争力も弱い。環境へのメリット、地域、地域経済への貢献が期待できる。今後は、地域のための地域のエネルギー、食糧の地産・地消を目指した自給自足・地域分散型社会の構築が必要である。そのために、地域の特性を把握し、地域で活用できるエネルギーを活かし、20～50万人規模の中核都市を形成すべきである。

石油、天然ガスや石炭は地球が数千年から2、3億年をかけて作りあげたものである。我々は、それをこの100～200年の間で使用し、現在の文明を築いてきた。しかし、地球も含め全て有限であり、有限なものには必ずその生産、使用の段階においてピークがある。ピークとかバブルはその真只中にあるときはそれと気付かず、それが過ぎたときにあのときがピークだったとかバブルだったと気がつくものである。したがって、先を予測し、リスクマネジメントを行い、それがStrongなのか、Weakなのか、OpportunityなのかThreatなのかを分析し、対策を練らなければならない。環境破壊という負の遺産を残し、後世の子孫から20世紀と21世紀の人類は何と何をしてくれたのかという非難を受けないようにすべきである。(芦田先生記)

講師プロフィール

昭和18年11月19日生(61歳)昭和42年3月京都大学理学部地球物理学科卒。石油資源開発(株)を経て、昭和61年京都大学工学部講師、平成8年京都大学大学院研究科資源工学専攻教授を経て、現在同大学社会基盤工学専攻教授。東京大学工学博士。物理探査学会論文賞、同功労賞各賞を受賞。日本学術会議第19期会員、(社)物理探査学会前会長他、多数の役職を務められ、又、「土木・建設技術者のための物理探査」「地環境情報学」など、多数の著書がある。

■ 時雨殿(見学会)

嵐山の新名所であります百人一首のテーマパークへそれぞれグループでの見学会をいたしました。時雨殿は、小倉百人一首の魅力と新しい発見がいっぱい詰ったエンターテインメントの空間です。

殿堂と名の付く堂々たる建造物もさることながら、藤原定家の日記(明月記)王朝の歌人たちとの優雅なひとときを楽しみつつ充実した見学会でした。



花の色は
うつりにけりな
いたづらに
わが身にふる
ながめせしまに
小野小町

2006年度 総会及び研修会

● 日時：平成18年4月26日(水)10:30～16:00 ● 場所：嵐山らんざん

時雨殿 見学

総 会

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 来賓紹介
4. 来賓祝辞
5. 議長選出
6. 議事
 - ①2005年度事業報告
 - ②2005年度会計報告
 - ③2005年度会計監査報告
 - ④役員改選
 - ⑤2006年度事業案(審議)
 - ⑥2006年度予算案(//)
 - ⑦その他

研修会

テーマ 「石油ショック」
— 21世紀は資源争奪の時代 —

講 師 京都大学大学院研究科 社会基盤工学専攻教授
芦田 譲 先生



表題「あけぼの」は、前京都府知事荒巻禎様の直筆で、インドネシア語(京都府友好国)「あけぼの」の意味です。
京都府に息づく豊かな自然の美しさ、「花」しだれ桜、さが菊、木「北山杉」、「鳥」オオムシナキトリ。を戸塚フランス刺しゅうで表現したものを表紙に用いています。



世界遺産・熊野古道を訪ねる旅 熊野古道の歴史、自然、環境から学ぶ

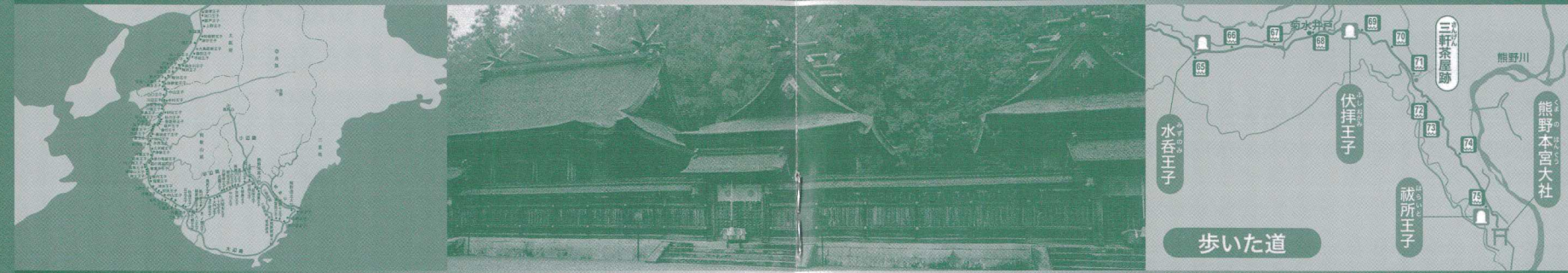
2006.9.11~12
主催：海外研修KYOのあけぼの会
京都商工会議所女性会

歴史の道 熊野古道に沿って

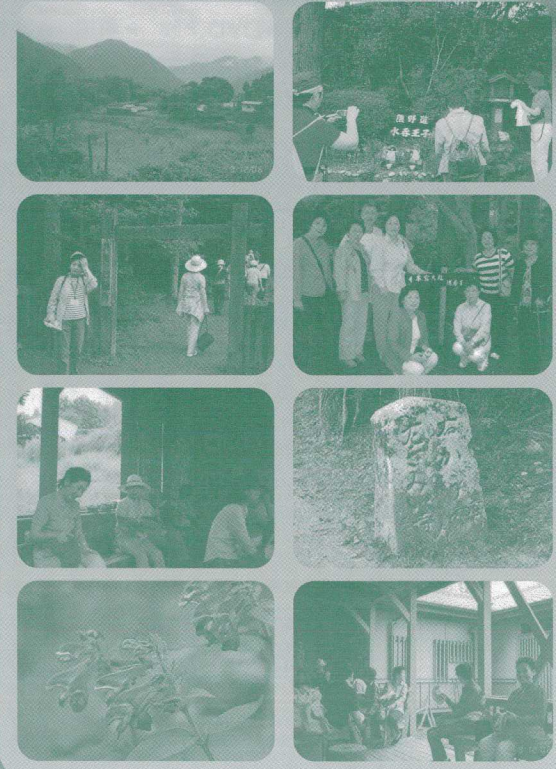
杉木立や自然林のなかの静かな古道をたどる時、私たちは“蟻の熊野道”といわれたかつてのきやかな光景を想像することはむづかしい。しかし、山路には時に苔むした石畳が見られ、沿道のところどころに九十九王子社の跡がある。

むかしの人々は、なせけわしい峠を越え谷川を渡って、熊野へ向かったのであろうか。神のこもる国として信じられた熊野の地は、家津御子神を祭る本宮、速玉神を祭る新宮、熊野夫須御神を祭る那智の三大社によって代表され、仏が神に化身して現れるという三所権現の地でもあった。それに、三嶽宗教の修験道が加わり、極楽往生の霊験あらたかなものとして全国に広まり、平安中期から江戸時代にかけて長い間、人々の間で“伊勢へ七度、熊野へ三度”とうたわれるほど念願の地として栄えた。

いにしへの人の想いを一歩一歩踏みしめて苔むした古道をたどって行く時、今も変わらぬ願いがよみがえってくる…



熊野本宮大社までの道のり



川湯温泉



語り部



グループミーティング



私達海外研のメンバーは自然環境COP3問題から世界水フォーラムより、水について、保水、水力発電などを国内国外を通して微力ながらも研修の場を持ち続けてまいりました。

特に今年の春にはエネルギーと資源問題を通し芦田先生の講演もお聞かせいただき、世界中で又宇宙において多大な問題をかかえていることに驚きを感じました。

さて、この9月11日・12日両日、2004年7月にユネスコ世界遺産に登録されました熊野古道を訪ね、歴史、自然環境から学ぶことを目的で自主研修を企画致しました。どうぞご覧ください。

1 平安時代から鎌倉時代は上皇、法皇、貴族の参詣から始まり、だんだん一般庶民に至るまで多くの人々が参詣するようになり、「蟻の熊野道」とたとえられました。京都からは淀川を下り大阪に至り大阪の堺から熊

野まで全距離350kmの道のりがあります。当時は熊野権現の御子神をまつたのが王子社として何百も道中にあつたそうですが現在は99王子社あります。

一つ一つの王子社には名前がつけられ、だいたい500mごとぐらいに立っていて、一つの道しるべ 休息の場 宿泊、食料の給配所その他王子社にまつわるいわれ話が残っております。

2 一日目は本宮町の地元の語り部の先生によって事前学習会の場をもうけていただき、熊野古道の歴史、自然環境を学ぶことが出来ました。

その中の一つとして、熊野三山の信仰とは熊野本宮、新宮、那智への三大社に向かう修験道として修業霊場の場でありました。当時、人々の間で伊勢へは7度、熊野へ3度と、うたわれる程の極楽往生の霊験あらたかな念願の地として栄えたそうです。

3 引きつづき4グループに分かれそれぞれ先生の講話を元に活発な意見交換をすることが出来、時間がオーバーする程でありました。又初めての参加者も多

く、交流の場づくりにもなった様に思えます。その後、各グループの代表がまとめを発表され熱気を感じさせていただきました。

4 2日目は早朝から熊野川の支流であります大塔川の川湯温泉です。静かな山間の清流沿いで川原を掘ると熱いお湯が湧き出す露天風呂、火山国ならではの自然に囲まれたため素晴らしい温泉に浸かることが出来ました。カモまでも仲間入りのひとときでございました。

5 さあ出発、いさぎよい足どりで第一歩は車道から始まります。水呑王子社、ここで口をぬらしここから山路、古道に入りました。山路には時には苔むした石畳、階段、急な坂、峠、足もとは石ころ、木の根っ子いろいろであります。

6 古道では山野草があちこちで観察することが出来ました。古道の周囲は手鎌で刈られ、シダや花を大切にされています。表土が暴風雨であれば土を入れられ常に守られているそうです。

7 伏拝王子は峠の天辺にありました。ここからの眺め本宮大社が見えることから感激して人々は伏して拝んだとのいわれがある王子社であります。

8 山並は2,000年前から変わることなく、連なっていますが、現在では育成している木々は人工林が多く、特に間伐、枝打の整備がされ美しい美林となっております。自然保護に力を入れていることが理解できました。

9 祓所王子74番、もうそこで本宮となります、この祓所王子とは、ここは旅のけがれをはらい、清め本宮に入られた王子社であります。

10 神のこもる本宮大社に辿りついた喜びをかみしめることが出来ました。

松皮ぶきの荘厳な建物であります。みなさんはどの様なお祈りをされたのでしょうか。貴重な史跡を残してくれた先人たちに感謝を致し今の時代を生きる私たちも永々に守り続けていかなければならない決意の旅となりました。

一瀬 裕子

第18回 KYOのあけぼのフェスティバル2006

日時 平成18年 10月14日(土)
10月15日(日) 場所 京都テルサ

1日目 ワークショップ
2日目 ミニバザール

海外研修KYOのあけぼの会 京都商工会議所女性会

世界遺産・歴史の知恵を今に生かす～熊野古道の歴史、自然、環境を学ぶ～

- パネル展示 ● DVD上映 ● 芦田京都大学大学院教授を講師として自主研修先である熊野古道の歴史、自然、環境を学ぶ。
- ワークショップでは自主研修熊野古道での成果を発表しました。

熊野古道語り部坂本氏による事前学習会講話での皆さんの意見感想をまとめました。

熊野古道への旅

A班では「自然を大切にすることを改めて見直す」という点を中心に、話し合いがなされました。その心を育てるのは教育ではないかという結論になりました。ポイントを3つ挙げて申します。

① 海外での取り組みはどうか

- ・デンマークは年を経ても変わらない
- ・ノールウェー、フィンランド自然のままが多い
- ・外国では自然を大切にしている

との意見が出ました。それでは日本はどうするのか、と言うことですが、外国のいい点を取り入れて且つ日本本来の生活を見直してはどうか、との意見が出ました。

世界の国々では、夫々にその国の国情と特徴があり、方針も異なります。ヨーロッパの国々は面積も広く、人口密度も低いので、自然を守り易いということが言えるでしょう。守るというより自然をそのままにしておくという方が適切かもしれません。自然を破壊してまで手に入れなければならないものは何か、と考えた時、ほんの少し文明の利益を我慢するだけであるならば、それが一歩前進したと考えられるのではないかと思います。

② 今の日本には自然を守るという守りの姿勢が欠けている。

守るというだけではもう遅い、そんな感じがします。地球が蝕まれていくことへの戦いでも言いましょうか。攻めと守りの両方が必要でしょう。日本本来の生活は、常に自然と共にあり、自然に包まれてその恵を受けるというものでした。それが今や利便性を追求することに貪欲な世の中になりました。飲み物はペットボトルで販売され、買い物すればビニール袋に入れるのが当たり前です。自然を食い潰すのが今の日本です。デンマーク、ノールウェー、フィンランドへは15年ほど前に行きましたが、本当に美しい国でした。今、これらの国へ行って15年前と同じであれば、素晴らしいと思いますが、現実はどうなのでしょう?大切なのは「変わらない」ということです。

日本は「変わり」ました。いい方向に変わったのでないことは、皆様もご存知でしょう。しかし日本が「変わった」だけでなく、日本の近隣諸国も「変わり」ました。今、世界中が「変わり」、自然を守ることへの関心が薄くなっています。

③ この軌道修正は先ず子供の教育から。

子供に期待するには、先ず親が模範を示さなければなりません。親が姿勢を正し、それを子供が見て育つ、ということから始めないといけないという点では意見が一致しました。

自然の美しさ、尊さ、その恵の有り難さ、人知の及ばない自然の力の大きさを子供に教えるのは、学校ではなく親ではないでしょうか。親子で道端の花を愛で、森の空気を吸い、鳥の声を聞いて、自然に触れることから始めたいと思います。

A班の話し合いの概要をご報告致しました。

高木 清子

水と環境

2004年7月紀伊山地の霊場と参詣道として、世界遺産に登録されました。

私たちは前日の9月11日、本宮町の語り部 坂本様より古道について、詳しく又興味深いお話を伺うことができました。当日がとっても楽しみにになりました。お天気が心配でしたが、暑すぎずの朝で、みんな元気に出発いたしました。

歩かせていただき驚きました。何と自然のままの美しさ、大変な投資と人力による整備がなされていると言うのに、その姿、形がどこにも見えず、何百年のその昔と同じ道だと信じさせられる演出に感動しました。ゴミ一つなく、美しさを守り、木々の緑が育てられているのです。深い愛情と、山への純粋な心がなければ、到底まもっていくことはできません。当時の方々と、この地の人々に心より感謝申し上げます。そこは日本の宝ですから。日本人すべてのひとが、心癒される場所が熊野古道にありました。

山の上の木々、緑が育つこと、すなわちそれが、わたしたちを守ってくれる環境となるのです。

ここで忘れてはいけない人の存在があることに気づきました。バスの中から見えました。熊楠の里 そうです和歌山県が生んだ、エコロジストの天才学者、南方熊楠(みなかたたくまぐす)です。自然保護運動の先駆者なのです。いま改めて水と環境を守る私たちに示唆を与えてくれる人物なのです。温暖多雨の熊野山地の大自然に分け入り、粘菌や稲花植物を発見、命の神秘をみせて行動し、再生する生態、大自然のなかの、その生命の蘇りに研究没頭した人でもあるのです。こんな彼も、当時産業革命で世界一となったロンドンが公害で、散々たる光景を呈したのを自分の目で見[自然の破壊は人間の破滅につながる]とのべています。

継桜王子社の方杉の群れを守るため、和歌山県知事にあてた嘆願書もあるそうです。

エコロジーは、万物共生、生きとし生けるものみな互いに助け合い、一緒に生きているということなのです。その美しい木々の緑に雨が降り地下を通り、川となり海にながれて美しい水が誕生するのです。今では一方杉も枝を張り、葉を茂らせ命脈々と熊野の天を支えてそびえているのです。

この自然環境を守らねば、将来に悔いを残さず、と叫び鎮守の森を守るため、満身創痍になりながら日本中でたった一人戦い続けた熊楠の焼けるような思いが、この度の世界遺産の栄をもたらしたのかもしれない.....と思えてならないのです。

みんなで美しい水を守るため、考え行動しましょう。

資源はもう無限ではありません。

福島 宣子

熊野古道参加者の一言感想

熊野古道を体験するこの旅はとても親切で内容のある企画で大変良かった。まず、中辺路から入って「水呑み王子」から「本宮大社」までを歩くコースの設定が適当で良かった。それに、僅か30名余りの規模のグループで三段階に分けた自分の脚力に合わせて、歩く距離・ヶ所の選択が出来有り難かった。何よりも、語り部の会の、坂本様による事前学習が、歩く時により深い興味と関心に繋がり意味深いものになりました。

歩いて感じたこと。

「三軒茶屋跡」から「熊野本宮大社」までの歩きでしたが、登り坂あり下り坂あり、石畳あり土地の根っこ道ありの、短い距離ながら、熊野古道らしき雰囲気味わえたと思います。途中で「蘇生の熊野古道」の石碑(平成十一年建?)を見つけたり、人工林が間伐されよく手入れされている様子がかがえたり、僅かながら所々に自然林の残されているのを見ると、此の熊野古道が世界遺産に登録されるまでの、地元の方々の努力の取り組みが推し量られる気がした。可愛らしい草花の咲いているのも見つけ、思わずさわりたい衝動に襲われたりもした。

未来に繋げたい思い

多くの人々に見て欲しい体験して欲しいの気持ちと共に、守り育てて暮らしている人の思い、訪れる者の行い、遠くから見守る者達、それぞれに何が出来るか、何をしなければならぬか、富士山の例もあることで、今真剣に考えなければならぬ時と思いました。(青木 妙子)

海外研修KYOのあけぼの会第4回自主研修世界遺産熊野古道を訪ねる旅に参加させて頂きありがとうございました。

熊野古道を訪ずれ、ゴミ一つ落ちてなく、古道は整備され、美しい山道でした。あれだけ何も如も整えられた環境のみが世界遺産として認められるのですね。接角の美しい自然環境を未来に残し、守り続けられる事は勿論ですが、この美しい自然の中に未来ある子供達を参加させ自然の美しさ、雄大さに触れ、この環境が如何に大切なものかを感じて欲しい、又出来る限り話し合う事を少しずつでも取り組んで行かなければならないと、現在の狂った世の中の状態を見て日々なんとかしなければと思っておりましたので、今回この企画に参加して深く思いました。(角川 禎子)

自然と環境を守る。命を守る。先人の並々ならぬ努力で守られてきたからこそ、今日ある熊野古道。ルールを守らないための若の事故、事件、老若男女一人一人がきちんと守ると言うことの大切さを自覚しなければと思っています。

短い距離の古道散策でしたが、雨上がりの羊歯のみどりの美しさ、鮮やかな一輪のつゆ草、目にやきついていきます。苔むした石を踏みしめ古の修験道に思いを馳せ、すべらないようけつまづかないよう、自分の足もとに注意するのが精一杯の道程でした。何よりのお誘いをうけ、貴重な体験をさせていただき大変お世話になりました。ありがとうございました。(北村 弘子)

先人の歩いた道を少しでも歩いたことは大きな学びであった。自然と人間の関係、歴史を学ぶのはそれを体験することが何よりの学習だと思う。小学校の卒業旅行が昔は伊勢神宮であったように、熊野古道が選ばれることを願う。(岡田 マサ)

自然と環境の両面から「マイ(私)箸運動」を提唱します。

「KYOのあけぼの」開催時などで販売されるか、参加者記念品として配布されるか検討されてはいかがでしょうか。(少し高額でも素敵なものであれば大切にいつも携帯されると思います。)皆さんは海外研修も実施されておられるので、海外に行かれるときにも自分専用の「箸」を持参され、使用されることで自然や資源を大切に実践者として世界に誇れるのではないのでしょうか。「京都から世界へ」発信してください。

今回のように事前に歴史や文化の勉強会を持っていただくと、物見遊山にならずに有意義な体験学習になると思いました。いろいろと事前の準備やご配慮に感謝します。

熊野古道によせて「脈々と古道の辻に曼珠沙華」

(田中 君江)

此の度 1,000年以上山岳信仰の霊場聖地として人々に守り継がれている熊野古道への旅に参加する機会を得たことは大変有難い事でした。足が丈夫でない私の冒険を危ぶむ家族の心配を振り切って、雰囲気だけでも思い参加しました。中途からですがよいよスタートとなった時、得も云えぬ力が湧いてきて膝にもみなぎり、あの山道を登っている私自身がまるで夢の中のように一步一步前進していました。上り坂、下り坂、石ころ、木の根っ子、道端の花と人の一生さながらに散りばめられた山道を流れる汗を拭いつつ、グループのしんがりを歩き通しました。本宮大社へ到着した時の爽快感は何にも例え様がありません。ゴール迄伴歩いて下さった方、道々励ましの言葉をかけて下さった方々に心から感謝いたします。私達人間はたかだか70年80年の生命を与えられただけですが、欲望を満たす為ここ50年の間に森林を破壊し生息する生物をも追いやり、地球の未来をも危うくしています。これで良いのでしょうか?

私は奥深い熊野の森や山の偉容に打たれ、この大自然の迫力を感じとり未来永劫に美しい自然を残す責務が私達にあることを実感し、今さかんに叫ばれている自然環境保護運動に一層協力して行くことを誓ったことです。熊野古道を辿り日本人の育んできた大切な世界遺産に注目しようと思ったことです。ここには現代人の魂を揺さぶる何かがあるのです。(武田 公子)



平成19年度 海外研修KYOのあけぼの会

海外研修自主研修旅行のお誘い

海外研修KYOのあけぼの会は、ご承知のとおり京都府が実施した女性海外研修事業の修了生が女性関係団体相互のネットワーク作り及び国際交流を促進することを目的に研修会等の活動を展開しております。

この設立主旨に基づき、2007年度は京都商工会議所女性会との共催で「スイス・チューリッヒ、ジュネーブ」への研修旅行を企画いたします。

2000年度の研修会において、講師としてお招きしたチューリッヒ在住のピアニストでスイスのユースオーケストラ役員、チューリッヒのオーケストラ役員の「ラング・イボンヌ」様のご厚意により、チューリッヒの各方面で活躍されている女性の方々と交流会をご準備くださる運びとなりました。これを機会に右記の点を目的として2007年度海外研修旅行を実施いたします。

記

●日程 2007年6月17日(日)～6月24日(日)<8日間>

●主たる目的

1. チューリッヒの女性との交流会(意見交換会)
 - 経済・教育・福祉・文化に関する意見交換
 - 現在、日本や京都が抱えている様々な問題(いじめ問題、少子高齢化問題、社会福祉問題、ドメスティックバイオレンス等)を提起しチューリッヒの現状と比較
2. ジュネーブ国際機関視察
 - 国際機関の本部が存在する都市ジュネーブを訪問し、世界の平和、安定、繁栄を目的として機能する国際機関を視察する。

●日程表

日時	月日(曜)	地名	現地時刻	交通機関	予定(宿泊地)	食事	
1	6月17日(日)	関西空港発 フランクフルト着 フランクフルト発 チューリッヒ着	9:55 15:05 16:05 17:00	LH741 LH3732 専用バス	空路、フランクフルトへ 乗り継ぎ 空路、チューリッヒへ チューリッヒ市内ホテルへ (チューリッヒ)	昼：機内 夕：○ (軽食)	
2	6月18日(月)	チューリッヒ	チューリッヒ在住 イボンヌ ラングさんによる特別プログラム ※フラウミュンスター教会見学、イボンヌさん宅での交流会(弁護士、銀行家、会計士、 学校教諭など)、現地病院・老人ホーム・小中学校視察、有名ゴルフクラブでのラン チタイム、豪華ホテル・ボラックでの夕食懇親会などを予定 ※プログラムの詳細決定後、専用車、通訳、食事料金(朝食以外)が旅行代金とは別 に共通経費として必要になります			(チューリッヒ)	朝：○ 昼：ー 夕：ー
3	6月19日(火)	チューリッヒ				(チューリッヒ)	朝：○ 昼：ー 夕：ー
4	6月20日(水)	チューリッヒ ルツェルン インターラーケン	午前 午後	専用バス	チューリッヒからウィリアムテルの伝説も残る旧市街の街並みが美しいルツェルンへ ルツェルン散策と昼食 スイスアルプスの山々が連なるベルナーオーバーラントの観光拠点 のアルペンリゾート・インターラーケンに向かいます (インターラーケン)	朝：○ 昼：○ 夕：○	
5	6月21日(木)	ユングラウヨッホ 観光	終日	登山列車	登山列車を乗り継いで標高3,454メートルの世界遺産ユングラウヨッホ まで登って行きます。スイスアルプスの雄大な 景観を思う存分にお楽しみいただけます。 (インターラーケン)	朝：○ 昼：○ 夕：○	
6	6月22日(金)	インターラーケン ジュネーブ	午前 午後	専用バス	インターラーケンよりジュネーブへ 国際連合ヨーロッパ本部見学とジュネーブ市内観光 (ジュネーブ)	朝：○ 昼：○ 夕：○	
7	6月23日(土)	ジュネーブ発 フランクフルト着 フランクフルト発	11:15 12:35 14:00	専用バス LH3663 LH740	空港へ向かいます 空路、フランクフルトへ 乗り継ぎ 空路、日本へ	朝：○ 昼：ー 夕：機内	
8	6月24日(日)	関西空港着	8:15		添乗員が関西空港まで同行します	朝：機内	

編集後記

昔(近世期)は「お伊勢は七度、熊野へ三度、愛宕さんへは月参り」という言葉があるように、参詣人で賑わったこと。現代では世界遺産であり熊野古道へは国内外より再び脚光を浴びております。

私たち海外研では熊野への歴史の深さ、更に今の自然環境からの視点を含めた研修の旅をすることが出来ました。

春と秋の講演会では(芦田先生の資源問題では実にフランクでわかりやすくあるべき方向づくりを目指す等)身

近な場面から…変革・研鑽を教わりました。女性への活躍が期待され重要視されます昨今、私たちてるびとを通しこの会を更に強い様々な形での仲間づくりとご参加をお待ちしております。

ご意見ご要望などお気軽に編集部までお寄せくださいませ。

会員皆様の御健勝お祈りいたします。

発行責任者

(海外研修KYOのあけぼの会役員一同)